

盛岡城跡から今も静かに 中津川を望む2羽の鶴

中津川沿いに
設置されているベンチ
盛岡を代表する風景とデザインが
市民に安らぎを与えています



ベンチの傍に設置された碑によるとベンチは岩手公園開園70周年記念事業の一環として、この公園が市民の憩いの場として永久に保存されることを祈願し、昭和51年に盛岡市が諸団体等の協力を得て設置したものである。ベンチの背もたれにデザインされているのは、盛岡南部家の「定紋」である「向鶴紋」。南部家が向鶴を家紋とした起源は諸説伝えられますが、そのひとつとして「南部家13代守行が秋田氏との戦中、夜明けの空に2羽の鶴が飛来し、九曜の星が空から降ってくる夢を見て勝利したことから九曜の星をつけた向鶴を家紋とした」という説があります。ベンチに施された向鶴紋。2羽の鶴が向かいあった美しい図案。2羽の鶴には「九曜の星」の紋がつけられ、左右対称のように見える鶴のくちばしを見ると向って右側が口をあけ、左側は閉じており「阿吽」の形となっていることに気付きます。

